

歴史の思想的欠陥を 認め、反省と責任を!

国労千葉地本運輸区統合分会 SOGA班新聞

12・8 平和を守る千葉県集会②

講演「関東大震災100年・朝鮮人虐殺問題」

講師・金哲秀(キム・チヨルス)さん(朝鮮大学教授)

何故デマは拡散され
信用されたのか?

金さんの報告では、まず政府が警察を利用しメガホンや張り紙で流言を拡散し、翌日からは「殺しても良い」と触れ回ったとのことでした。

では何故こんなことをする必要があったのか?それはこの事件当時が、戦争後や不況などで非常に重苦しい時代であったこと、

更には遡ること30年も前からの侵略による植民地支配で、民族差別が常態化していたのだと思います。



たいと思っただけで、いたのではありません。そこに(権力側としては)良いタイミングでの大地震が発生し、これを国民向けの

映画「福田村事件」でも描かれていたが、ごく一般の国民の誰もが何らかの不安、不満、そして怒りを抱えながらこの時代を生きています。それこそ誰にぶつけることも出来ない憤りを悶々とした形で...

おそらく政府や警察は、その予先が自分たちに向けられるのを避けたいと思っただけで、いたのではありません。そこに(権力側としては)良いタイミングでの大地震が発生し、これを国民向けの

いわゆる「ガス抜き」に使おうと考えたのではないのでしょうか。

一般国民も「いつか朝鮮人に反撃されるのでは」といった恐怖心のあるものを常々抱いており、自分より弱い対象を攻撃してしまおうという人間の愚かな習性がいとも簡単に爆発してしまっただけだと思います。

それは「デマが信用された」とかではなく、自分たちが抱えている怒りをぶつけるための簡単な口実でしかなくなっていたようです。

あと、これは次号で詳しく書くつもりですが、現在と違い、情報の量が圧倒的に少なかったことも大きな要因だったと思います。

恐るべき集団心理!

憲法集会、そして映画を経て、今回の講演は目を覆い、耳を塞ぎたくないような事実の連続で、自分の率直な気持ちは「一体これは何だったのか?」であります。

虐殺に直接関わったのは軍隊、警察、消防や自警団であり、ごくごく平凡な一般市民による自警団が最も残酷な殺戮であったことも、講演で紹介され、人間が狂気化する実態に身震いしたほどでした。トラウマは必ずですが、正確にこれを知ることは日本人の

義務だと思っようになりました。

概要の補足

この事件は、首都圏(勿論、千葉でも)を中心に東北、信州、北陸などでも確認されているようです。

現在まで続く恥!!

この事件後も鬱屈とした社会が続き、同様の差別や殺戮が繰り返された報告がありました。

現在も否定論がはびこり、各地でヘイトスピーチなどが繰り返されています。日本人として非常に恥ずかしい思いで会場を去りました。



☆ この時の朝鮮人側の恐怖心は大変なものだったはず。是非自分の身になって考えてほしいと思います。